

昭和四年（一九二九）

一月

- ・日貨（日本製品）排斥運動激化
- ・岐阜県犀川切り落とし反対町民一五〇〇人県庁へデモ。三五〇〇人に膨らんで暴動。
- ・朝鮮元山の石油・運輸労働者一五〇〇人スト
- ・民政党の中野正剛 張作霖爆殺事件で追放
- ・上野松坂屋火災
- ・中国の改訂輸入税率を承認

二月

- ・東西預金協定銀行 預金利率引き下げ
- ・衆議院 内閣不信任案否決
- ・日本寄生虫学界設立

- ・説教強盗事件逮捕（注1）
- ・宮城県気仙沼町大火 焼失一〇〇〇余戸
- ・青森県車刀村 小作争動 警官と乱闘
- ・武蔵野音楽学校設立

三月

- ・国技館で台湾博覧会
- ・横浜市電 九七五人首切り反対スト
- ・横浜船渠工信会 四九〇〇人賃上げスト
- ・治安維持法改正反対の山本宣治代議士を右翼が刺殺
- ・山本宣治らの労農祭で検挙者数一〇〇〇人
- ・茨城県石岡町大火 焼失一五三〇戸
- ・済南事件 日華間で協定調印
- ・航空郵便規則公布
- ・国宝保存法公布
- ・家畜保険法公布

・大学卒の就職率五三% 東大卒三〇%

四月

- ・東京、大阪に工業大学新設・東京、広島に文理科大学と高等師範学校新設
- ・壽屋初の国産ウイスキー「サントリー」発売（四円五〇銭）
- ・日本航空 立川、福岡間定期運行開始
- ・甲子園に阪神パーク開園
- ・玉川学園新設
- ・東京府立高校新設
- ・対支非干涉闘争週間開始
- ・兵庫県太子駅付近で電車三重衝突 死傷者約一〇〇人
- ・日本、欧州間 無線電信開始
- ・阪急百貨店開業
- ・日本共産党員を全国一斉検挙
- ・金解禁近しと東京株式売物殺到

- ・台風本州縦断 死者不明者約一六〇人
- ・日本鋳業(株)設立
- ・東京マネキン倶楽部結成

五月

- ・第一〇回メーデー
- ・東京の正午の空砲がサイレンに
- ・東京行進曲のレコード発売
- ・南京・漢口両事件 解決文書に調印
- ・トーキー上映開始(アメリカの『進軍』)
- ・陸軍将校一夕会を結成し、満蒙問題の解決を目指す
- ・ガスの非買同盟結成
- ・岐阜県船津町大火 死者二名 焼失家屋六二〇戸
- ・海軍機 横須賀へサイパン間の飛行成功
- ・樺太留多加町山林大火 死者一〇〇余人 焼失家屋一〇〇〇余戸
- ・石川島自動車製作所発足 新車「スミダ」製作

六月

- ・第一回大阪へ東京間マラソン大会
- ・犬養毅ら南京の孫文慰霊祭に参列
- ・政府 中華民国を承認
- ・拓務省新設
- ・東京へ立川間の省線電車開通
- ・朝鮮疑獄事件発生
- ・長崎県松島炭坑 浸水で死者四二人
- ・万国郵便条約調印
- ・邦楽座 楽士の解雇開始
- ・教員の給料不払い減俸が全国的に

七月

- ・田中内閣総辞職（注2）
- ・文部省思想対策強化
- ・婦人・年少者の深夜労働禁止
- ・浜口内閣成立
- ・金解禁 緊縮財政 株式続落
- ・（株）昭和製鋼所設立
- ・横浜正金銀行 輸出手形の買入開始
- ・ソ連 対華国交断絶
- ・日航 東京↷大阪↷福岡間 定期旅客運送開始
- ・全産業労働組合全国会議設立

八月

- ・北海道上歌志内炭坑爆発 死者七〇余人
- ・全国暴力団八八四人 一斉検挙

- ・第一回全日本学生庭球選手権大会
- ・ドイツ飛行船ツェッペリン伯号世界一周中、霞ヶ浦に到着
- ・浜口首相 緊縮政策を全国放送
- ・北海道鉄道疑獄事件 売勲疑獄事件
- ・宮本顕治の『敗北の文学』が『改造』に一等入選

九月

- ・新歌舞伎座開場
- ・東京↷下関間の特急列車「富士」「櫻」誕生
- ・小林多喜二の『蟹工船』刊行されるも発禁処分（注3）
- ・奄美大島暴風雨 死者一〇人 全壊家屋一四三〇戸
- ・全国的に酒なしデー実施
- ・一銭入れると三〇ℓの水が出る「一銭水道」がジャワから届く

十月

- ・新聞値下げで九〇銭
- ・小西本店 初の国産写真フィルム発売
- ・世界恐慌起こる
- ・日本郵船 冷蔵庫を備えサンフランシスコ線就航
- ・犬養毅 政友会総裁に就任
- ・農業土木学会設立
- ・日比谷公会堂開場
- ・東京で知識階級の失業者登録を開始
- ・ニューヨークの株式大暴落で破産者続出 生糸価格も崩落
- ・東京市が多産制限を指導
- ・小菅刑務所落成
- ・小学校長会 中学入学筆記試験復活反対を唱える

十一月

- ・内務省 全国失業調査三〇万一九五人と発表
- ・労農党結成（大山郁夫ら）
- ・朝鮮で反日学生運動激化
- ・ラジオ全国中継開始
- ・政府金輸出解禁を発表（施行は翌年一月十一日）
- ・日本国民党結成
- ・（株）播磨造船所設立
- ・秋田県前田村で小作争動 警官と乱闘
- ・五私鉄疑獄事件に関し、小橋文相辞職
- ・佐分利駐華公使 ピストル自殺（注4）
- ・労農大衆党結成（水谷長三郎ら）

十二月

- ・ 東京市電争議発生
- ・ 全国製糸業者一斉休業
- ・ 東京駅八重洲口完成
- ・ 社会民衆党分裂
- ・ 日本ゼネラルモーターズ 一三〇〇人解雇反対争議
- ・ 東京電気(株) 写真電送変調方式の特許取得
- ・ 上越線の清水トンネル開通 九・七キロメートル
- ・ 北京近郊で北京原人の化石発見

(注1)

二月二十三日 説教強盗が逮捕された。物品を盗むと長時間に亘って居座り、防犯の心得など説教するという摩訶不思議な事件で、前年秋から一〇〇件に及ぶ犯行を繰り返していた。新聞にも自首を勧める広告が出たり、数十万という指紋の照合から犯人が絞られ、二〇〇〇人の警官が動員された末、検挙に至った。判決は無期懲役、昭和二十三年に仮出獄している。

(注2)

昭和三年六月、中国軍閥の張作霖が国民軍に追われ、北京から奉天に向かう途中、列車が爆破されて死亡する事件が発生した。これは関東軍の河本大佐らによる犯行だったが、これを秘し「事件は蒋介石側のテロ集団がやった」と発表した。しかし、一般には関東軍によるものと疑われていたし、新聞もその旨の報道を始めその成り行きが注目される中、政府は陸軍の圧力で河本大佐を停職処分に留めていた。

この件について天皇の下問に対する田中総理の再三にわたる釈明が、軍を抑えられないため要領を得ず、『昭和天皇独自録』文芸春秋社(刊)によれば、天皇は「前の話とは違うではないか」と叱責、遂に総理辞職に発展し、七月河本大佐は退役処分となった。

(注3)

小林多喜二が筆を執ったのは、昭和三年十月、翌年三月に完成、五・六月号の『戦旗』に掲載されていた。彼は一年あまりを費やして調査し、北洋漁業の船内における労働者虐待、囚人的労働や組織の実態に迫った。作品の中に、蟹缶詰の献上にあたり「石ころでも入れておけ」という発言が出てくるが、これが不敬罪に該当すると発売禁止になった。が、プロレタリア文学として果たした役割は大きく、作品は世界各国に翻訳紹介されている。

(注4)

佐分利公使は、前夜箱根のホテルに宿泊したが、翌朝拳銃を手にし、頭から血を流して死んでいた。対中国との交渉が難航した責任をとって自殺したということになっているが、右翼あるいは軍による犯行とみる意見もある。彼等によれば、公使が支那に好意的だということであった。